十二月二日　夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

玩具の與へ方 (1)

平第二小學校長　千葉右近

玩具は大人が忘れてしまつたコドモの世界を、より樂しくと彩り乍ら子供の一番樂しい友達となつて明け暮れ其生活を豊かに滿たすもので御座居ます。

人形の病氣が分つたり、豆の樣な流線型の自動車で世界の涯までも飛び歩いた氣持に浸りきれる、あの天眞爛漫なコドモ達には一體どんな玩具を捧げたら良ろしう御座居ませう。見て居りますとコドモ等は、木片でも小石でもほとりにある程の物はみんな自分の相手にしてしまつて、樂しみ盡して居ります。その姿は全く他念なく一生懸命で、其處には何か尊い頭の下るものが御座居ますからのぞき見る毎に『これはどうしても、良い玩具を上げなければ相濟まない』と云ふ氣持に母の胸は充ちるので御座居ます。

近來玩具に對する大方の關心が高まつて參りましたのと、製造家の技術が進々で參りました爲に玩具の種類は誠とに豊富になつて居ります。材料から申しましても、木のもの、竹のもの土のもの、金屬、セルロイド、紙、布、糸、綿、ガラス、ゴム、それにつくろはぬ自然物など數へれば十の指にも餘ります。

形式から申しましても大きいもの小さいもの、動くもの、音の出るもの、續むもの、組むもの、機械仕掛のものなど、それこそ母の乳房と間違へて可愛らしい唇で吸つて楽しむおしやぶりから始まつて、學校で教へて頂く理科のおさらひになる樣な、やがて世に出て一藝に秀でやうとの望みを援けるに足る模型と云ふ樣な、高級の物に至りますまで數へ切れない程御座居ます。又市に賣られて居りますものゝ値段を見ましても一つ一錢の小物おもちやから母親たちの紋付の羽織と取替へられる程高價なもの迄限りが御座居ません。

何でも、子供が喜びさへすればそれが一番良ろしからうと申しますものゝ、どうして仲々この澤山な中には、良い物もありあまり香ばしく無い物もありますので、出來る丈け小さい人達の爲になる樣にして喜ばせて上げ樣と思ひますれば色々と心碎かれて來るので御座居ます。

其處で、選び與へますに就而、思ひつきました事を少しばかり申上げ度いと存じます。

まづおもちやはコドモの心や體の進み方に適當したものを選びます爲に、年齢を其目安にするのが第一の定石でございませう。

年齢の進むにつれて智慧も增し體も大きく活動も盛んになり、遊びの仕方がだん〳〵と變つて參りますから之に從つておもちやを選びますならば、餘りコドモとかけ離れた物とはなりませんで間違ひが少いかと思ひます。

◎○○○

佐藤代議士

洋行歸りの快擧

萬歳々々に嬉しさう

三時間半の長廣舌

疲れも見せず大元氣

一介の『野人』を以つて自他共に許す老政客代議士佐藤代議士は昨日午後四時四十三分平驛着の下り列車で平町に洋行歸りの巨軀を現はした。プラットホームには岡氏の友人知己が多數出迎へて萬歳々々を浴せ掛ければ、佐藤代議士も流石嬉しさうにニコ／＼しながら『イヤア御心配をかけました』とノッシ／＼

改札口を歩みを進めハタの者が『自動車々々』と氣を揉むのを『ナーニ歩いた方が樂だよ』と先になつて宵闇迫る街の巷に突入沿道知り合ひの門口毎に大聲で『今歸つて來ましたヨウ』と怒鳴る

賓來亭に一先づ落ち着いて、御機嫌奉仕の人々と急しさうに挨拶を交はしながらお茶をガブ／＼仰り洋行視察談を一席辯ずる爲めに會場の第三校講堂に自動車を飛ばす、折惡し降り初めた雨もものかは

非常な盛會で元氣な佐藤氏の姿を見るや聽衆は熱狂して嵐の樣な拍手を浴せかける、井上茂作氏の開會の辭に次いで登壇した佐藤氏は長途の旅に少しも疲れを見せず

赤毛布振りで笑すやら、鄕里出身者の成功振り等を詳細に辯じ更らに轉じて諸外國の文化施設、軍備の狀況、經濟關係等綿々として說き去り說き來り約三時間半に亘る長廣舌を振つて大いに鄕里の人々を啓蒙する處があつた

豐間回春園長　豐間村縣立回春園金親園長の辭職に伴ふ後任は目下詮衡中であるが卅日縣衛生課長土屋忠良氏が事務取扱を命ぜられた

磐女の講堂

昨日上棟式擧行

來年二月中旬迄には完成

磐城高等女學校の講堂は既報の如く縣營繕課伊藤技手の指揮により連日大工約五十名により竣工を急いでゐるが工事は豫期以上進捗し昨一日上棟式を擧行した、右工事視察のため卅日來平の近藤技師は語る

工事は豫定通り順調に進行して居る故今後の氣溫天候が壁其他の仕上工事に著しき障害を見ない限り二月中旬までには完成するだらう何分名物の强風を眞面にうける建物だから愼重な注意を拂ひ且つ立派なものを造りたい考である

平町會……

三日に開く

平町會は明三日午後一時より同會議室に招集左の諸件を附議する由

(議案)昭和十年度特別稅戶數割異議申立決定の件　區長及區長代理者推薦の件　行政訴訟參加の件　寄附採納の件

(報告)昭和九年度特別稅會計財産歳入出決算報告の件　特別稅戶數割行政訴訟經過報告の件

(諮問)磐城炭礦株式會社出願石炭訴訟に關する件

十二月の暦

歳末賣出しと

忘年會に賑ふ

入營の門出を祝ふ旗に

年の瀨は迫る

農山村は今や收穫を終へて冬の營みに入りやうやく副業の時代となつて來た、雪積る山腹に製炭の竈の煙が景氣よく立昇るのも其處此處の山中から市場へと木炭の運ばれるのもこれからのころである、村や町では又農産物等の品評會等に自慢の品を持ち出して較べ合ふ季節でもあり平町では歳末を控へて聯合賣出し等に拍車をかけ人出の殷賑を加へる季節となつた、凶作の聲に多少不景況の色は漂つて居るが炭礦方面は需要景盛期の繁榮に村となく町となく忘年會の催しに花柳の巷が一入賑ひ新年早々の入營の門出を祝ふ壯丁の門前にはその前途を壽ぐ幾流もの旗が飾られ如何にも年の瀨を痛感せしめる

精神作興出席　文部省主催國民精神作興講習會は去月四日より三十日まで福島師範學校で開催されたが本郡よりは平第三小學校訓導新家芳美氏が出席昨一日歸平した

學術研究補助　毎年學術研究を奬勵してゐる宮城縣仙臺市の齊藤報恩會の學術研究費補助申込は現在受付け中であるが當地方申込希望者は左記書類添付して來る十日まで申込まれたいと

研究の目的計畫並に其の說明書　收支豫算及說明書　研究責任者の履歴書

同報恩會理事又は評議員の紹介狀

體操科研究會　平町三小學校及び內鄕、好間、飯野校等十一校を含む第三區第一方部體操科研究會は明三日平第二小學校で開かれるが指導者は同校鈴木武夫、渡邊啓二の兩訓導で正午から右批評座談會に移ると

寄附者に

感謝狀贈呈

自動車檢査所落成式

平町八幡小路に新設された自動車檢査所合同の自動車檢査所落成式は本三日午前八時より縣の山崎保安課長その他百餘名の來賓を迎へて盛大に擧行されたが尙同檢査場設立に當つて多額の金員を寄附し設立完成に功勞あつた安全自動車株式會社、平町用品商組合、日本ゼネラルモータース株式會社外十二名に對して感謝狀を贈呈した

奉祝行列打合　平町各小學校は今二日午前十時より平第一小學校で來る四日の奉祝旗行列及び十二月分行事について協議した

日立電力所長　平卓球協會長は立電力夏井川發電所長丹野英治氏は今回同社平支店長に榮轉夏井川、好間、湯本の各變電所長を兼務する事になつた

平町人事

回出生

△立町九五新妻明氏二女美智子さん

△二丁目二四茨城縣久慈郡坂本村大字茂宮生高橋幸氏長女奎子さん

△紺屋町三八栃木縣那須郡向田村大字野上理れ水井和之次四男博さん

△古鍛冶町三八當時神奈川縣川崎市堀之內二五高野優平氏二男弘さん

回死亡

△二丁目一四北林太一さん(二〇)

平職業紹介所報告

回人を求める方

△女中　廿二才迄　尋卒　月給六圓

△女中　十七才位　尋卒　月給五圓

△女中　廿才迄　尋卒　月給五圓仕眞

△配達夫　卅才迄　日給七十錢　住込は月給十三圓

△氷配達　卅才迄　月給六圓—十圓

△事務員　廿才前後　月給十五圓

△運搬夫　廿四才迄　月給五圓

△料理見習　廿三才迄　月給七八圓

△漁業雜役　廿五才迄　月給十圓

△粕〆人夫　卅才迄　月給十二圓—十五圓

△土工夫　四十才迄　日給九十錢

△雜夫　廿才前後　日給四五十錢

△採炭夫　卅五才迄　日給一圓

回職を求むる方

△事務員　卅二才　中四修

△配達人　卅才　尋二修

△女中　廿五歳　高卒

△女中　廿歳　尋卒

△自動車助手　廿一歳　尋卒

△集金人　卅四歳　中三修

△飲食店使用人　廿七歳　尋卒

△料理人　四十四歳　高卒

△旅館番頭　卅四歳　高卒

△鐵筋工　卅一歳　高卒

△鐵工　廿一歳　高卒

隣人愛も空しく病床に

入營兵の遺族に手傳ふ青年團員

大浦村大字上仁井田字北姥田農大野トメ（五八）さん一家は去る六月唯一の働き手である戸主勝雄君が歩兵第七十五聯隊へ入營して以來殘された幼い弟妹たちと共に辛ふじて耕作を續けてゐたが最近トメさんが急性肺炎で病床に呻吟し頼るものとてもない氣の毒な有様を見て同村中組青年分團長猪狩留松君外九名の團員が去る二十二日同家所有の水田の稻刈を行ひ二毛作の麥まきまで奉仕し改めて同家の救護に奔走する事になつたが尚トメさんは十年前夫に死別引續いて長男に先立たれた薄倖な人で然もこれ等の温をい隣人愛も空しく病氣は日增しに重くなりつゝある由

寒い滿洲から故國の被害に同情

警備の駒本根君が送金

上遠野村大字深山字仲ノ內農源平氏長男駒本根多平君（二二）は一月盛岡騎兵第二十三聯隊に入營九月渡滿、目下三粱省方面の警備にあたつてゐるが去る十月二十七日の石城地方山間部を襲つた災害を新聞で見て『郷里の罹災者へ與へて貰ひたい』と此程植田署宛金五圓を郵送して來たが駒本根君は以前から模範青年として村內の評判者で實家にも屢々送金してゐる由

湯本理髮奉仕

卅日より實施されてゐる健康週間に際して湯本町理髮業組合並に女髮結業者は明三日休業して湯本、入山兩小學校に出張理髮組合は男生徒の散髮、女髮結は女兒童の頭髮の手入を無料で奉仕す

軍人の遺家族慰恤

本縣郷軍後援會長より

平町左記軍人遺族に對して今回帝國在郷軍人後援會福島支會長より慰恤金を贈與された

郷軍宣町渡邊フク　正
月町渡邊カネ

徵兵適齢捜索

相馬郡駒ケ嶺村大字東清水吉田潔（二〇）は去る昭和八年家出以來行方不明になつてゐた

粘土坑で落磐壓死

昨一日午後二時頃赤井村大字赤井字吉野作地內同村長谷川亨氏所有粘土坑々內に落磐あり作業中の坑夫同村小山豊吉（二二）は壓死、川田正平（二七）は重傷直ちに平町安濟醫院に入院手當中であるが全身に打撲傷を負ひ內臟出血多きため生命危篤であると

牛松方で賭博開帳

小名濱町竹町高橋新次郎（六四）同熊谷倉次郎（六七）同横町鈴木武八（七一）同田邊牛松（五〇）の四名は前記牛松方で一日午前十二時頃花賭博開張中駐在所員に踏込まれ一網打盡に捕縛された

植田警察召集

植田警察署は去る廿九日午後三時勿來町巡査部長派出所前に管內巡査の非常召集を行ひ終つて同町松岡屋で慰勞の宴を催した

明日のラヂオ

三日

今晩北西の風晴後曇り明日は北東の風模

今晩の部

▽後六、〇〇 子供の時間 ラヂオアソビ「カンガヘモノ」上野光子
▽後六、二五 基礎英語講座 三十七 岡倉由三郎
▽後七、三〇 講演「太陽光線の話」理學博士關口鯉吉
▽後八、〇〇 連續講談「大久保武藏鐙」第二席 大島伯鶴
▽後八、四五 小唄「初雪に」外五ツ 藤村孝
▽後九、〇〇 管絃樂 第四回音樂コール入賞作品新交響樂團
▽後九、三〇 時報 ニュース 明日の歴史 氣象通報 番組豫告

明日の部

▽前七、〇〇 基礎獨語講座
▽前七、三〇 朝の修養「稱讃の成道」二 花田凌雲
▽前九、〇〇 衛生メモ
▽前九、一〇 料理獻立「豚肉のごつた汁」宮城縣食肉協會
▽前一〇、一〇 幼兒の時間 お話「三匹の仔豚」吉田幸
▽前一〇、三〇 家庭講座「牡蠣の榮養と料理」大阪市立衛生試驗所技師醫學博士下田吉人
▽後〇、〇五 合唱 第九回合唱祭入選團體關西學院グリークラブ外三團體
▽後二、〇〇 小學の時間 尋三國語お話と唱歌「軍旗」
▽後二、四〇 小學の時間 高一國語「マルコポールの東方見聞錄」
▽後六、〇〇 子供の時間 童謡と唱歌 岩手縣日詰尋常高等小學校兒童
▽後六、二五 青年の時間「青年と壯年」丸山鶴吉
▽後七、三〇 講演「日伯貿易の將來と移民」平生飯三郎
▽後八、〇〇 連續講談「大久保武藏鐙」第三席 大島伯鶴
▽後八、三〇 謡曲「枕慈童」村井次郎他
▽後八、五〇 義太夫「双蝶々曲輪日記」引窓の段 竹本小仙
▽後八、四五 小唄「初雪に」外五ツ 藤村孝
▽後九、〇〇 管絃樂 第四回音樂コール入賞作品新交響樂團
▽後九、三〇 時報 ニュース 明日の歴史 氣象通報 番組豫告
▽前七、〇〇 基礎獨語講座
▽前七、三〇 朝の修養「稱讃の成道」二 花田凌雲
▽前九、〇〇 衛生メモ
▽前九、一〇 料理獻立「豚肉のごつた汁」宮城縣食肉協會
▽前一〇、一〇 幼兒の時間 お話「三匹の仔豚」吉田幸
▽前一〇、三〇 家庭講座「牡蠣の榮養と料理」大阪市立衛生試驗所技師醫學博士下田吉人
▽後〇、〇五 合唱 第九回合唱祭入選團體關西學院グリークラブ外三團體
▽後二、〇〇 小學の時間 尋三國語お話と唱歌「軍旗」
▽後二、四〇 小學の時間 高一國語「マルコポールの東方見聞錄」
▽後六、〇〇 子供の時間 童謡と唱歌 岩手縣日詰尋常高等小學校兒童
▽後六、二五 青年の時間「青年と壯年」丸山鶴吉
▽後七、三〇 講演「日伯貿易の將來と移民」平生飯三郎
▽後八、〇〇 連續講談「大久保武藏鐙」第三席 大島伯鶴
▽後八、三〇 謡曲「枕慈童」村井次郎他
▽後八、五〇 義太夫「双蝶々曲輪日記」引窓の段 竹本小仙

電柱の腐朽を知らぬ工手に

四十圓の罰金言渡

感電傷者を出して

平町福宣町一八電氣工手上野重忠（四二）は飯野村方面擔當の電線工手であり乍ら同村上高久字五反田田甫の電柱が腐朽して電線が垂れ下り一昨年同村鈴木福松が之を電柱に卷付けて置いたのを氣付かずに置きその爲去る八月一日同村鈴木ミキが之に觸れ全治二週間の感電傷を受けた廉で業務上過失傷害で平區より略式罰金四十圓に處された

故吉田氏慰靈

小川第一小學校長田久德次郎氏外有志で組織された小川郷會は去月上旬急逝した同村出身前日本赤十字福島支部主事故吉田市之助氏の遺族慰問のため來る八日午前十四郎さんから捜索願を一日平署へ

新鑑札には理容術師！

立派なものであるデス床屋さん、トコヤさんと一口に云ひますが今度立派な鑑札が政府から交附されて一躍威張ることになつたデス——これは勅命に依つて制定された新法令中に明春一月から全國一齊に床屋さんは理髮師から理容術師に一齊昇格し政府から鑑札を交附されることになつたがトテモ立派なものであるです。で床屋さんは非常に愉快になられる譯ですナ

時より小川村大字柴原の遺族を訪問し遍照寺へ詣で墓前で盛大な慰靈祭を行ふと

平町一部紺屋町水道斷水

紺屋町地內縣社子鍬倉神社下より材木町に通ずる中央十字道路排氣弇並に止水栓取付工事の爲め本二日午後九時より十二時迄紺屋町、材木町、研町の各一部は斷水する、また八幡小路地內平町火葬場給水工事施行のため紺屋町地內工事に先立ち午前十時より午後二時まで八幡小路一部は斷水される

好間消防檢閲

好間村消防組及同少年火防隊の檢閲は來る八日午前九時より同村小學校庭に於て平柴田署長臨席の下に行はれる

セメント工場見學

來る八日平町青年團で

平町青年團は來る十二月八日修養部並に體育部主催で磐城セメント四倉工場見學を行ふが當日は午前八時二十分平驛發出發、同工場見學後正午玉山礦泉到着の上晝食の豫定で團員中希望者は來る五日まで幹部まで申込まれたしと

平裁判たより

△安積郡豊田村生れ平町四丁目二二自動車運轉手七海寅雄（二二）は去る九月十二日午後二時頃自動三輪車を運轉し草野村泉崎地內を疾走中前方通路中央に停車中の乘合自動車を追拔かんとして不注意から車體を道路外に跳ね飛ばし傍の堤上に在つた同村渡邊つね子（一）に衝突全治二週間の頭部打撲裂傷を與へ然も所轄警察署へ届出を怠り平區から自動車取締令違反で略式罰金三十圓

明治太平記

（線路斷絶及上映）

（作）寺島柾史
（畫）野口彌

第二百八十九回

生者死者（五）

――これでは、西洋心酔の開化の、新人たちだつて、いくらか眼がさめるだろ。大志賀さんはさすがに偉い。

が、茂平次の愉快に反して、素浪人に牛腕を執られて市中をさらし廻されるウエルズは、もう泣きッ面を通り越して逆上してゐた。

『こりや、離せ、離さぬか』

しかし、逆上してゐても血をほしがるあひ首の恐ろしさを知るだけの本心は失はなかつた。身動きすれば自分の肌を噛む野蠻な日本人の兇器の意地悪さにはかなはなかつた。

『動くと血が出るぞ。静かにして尾張坊まで來い。樂に眠らしてやらう』

大志賀は平静そのものゝ眼で、ウエルズの狂暴な眼をおさへつけた。

濱松町邊まで無事に來たもう一息で尾張坊である銀座尾張坊角までウエルズを連行したら、そのとき茂平次をいろは幽屋まで走らせ、いまは息絶え〳〵のおとわだが、衆人環視の中でおとわに仇討をさしてやらう……

――それまで、おとわよ生きてゐてくれ。

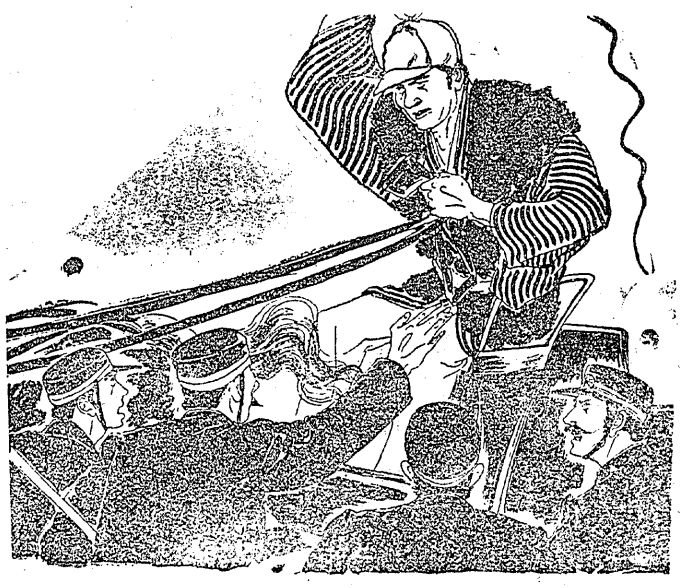
さういふ祈念で大志賀の胸中はいつぱいだつた。

東京の眞ン中で、病める一婦人が、鷲鼻の高慢な西洋人を討ち取るといふ、前代未聞の事件はあと一時間とたゝぬまに、白晝公然と行はれるのだ。助太刀商賣の大志賀のよろこびは、ぎよ者臺の茂平次以上であらねばならない。

もう彼は、蒸汽車を飛び降りたときの半顔をすり寄いた傷の痛みなぞけろりと忘れて、むかしの旗本大志賀市之丞の潑剌たる壯者にかへつてゐた。

――さア、この仕事が一段落ついたら、それでもう自由だ。天竺たちが、モレルから奪つた五千兩で、朝鮮征伐でも何でもやるぞ、もし、おとわが生きてゐてくれたら、茂平次と一緒にエトロフだ。いづれにしてももう東京なぞ……おれの生れた土地をすて〻、新生の天地を求めて往くぞ。

おのづと、勇躍する感情をおさへかねた。



――おとわ、生きてゐてくれ、おとわ。

こゝろにいくたびかくり返した。

そのときぎよ者代りの茂平次は、振かへつて小聲で叫んだ。

『いけない！』

『なに！』

大志賀は樂しい空想を破られた。

『前方から、邏卒の一隊が押寄せた』

『うむ』

さては、豫期のとほり、やつてきたな……と思つた

『どうする？』

茂平次はまた云つた。

『なアに、蹴殺してゆくまでのことさ』

『さうか、やらう』

茂平次はあつさりとこれに同意して、またも勇ましく鞭を振上げた。

まもなく、邏卒の一隊、およそ三十人ばかりが、三尺棒を小脇に、バラ〳〵と駘けてきて馬車の前方左右に立塞つた。

『とまれい』

邏卒を指揮する一人はつか〳〵と前に進んでいつた馬はおとなしく足なみをやすめた。

茂平次はぎよ者臺の上から周圍を見廻し

『どがつしやい』

と、これは千島の潮風にきたえた太いたくましい聲で怒鳴つた。

一歯科一般
工科　歯列矯正科
一口腔外科
保存科補綴科　繼續架
小兒歯科　歯槽膿漏科
一レントゲン科
中野歯科醫院
平町田町（松月堂向と）
電話五〇九番
院長
日本歯科醫學士　中野惠次
日本歯科醫學士　西川誠

磐城共濟病院（福島縣平町　電話六四一番）
内科　院長　石山謙郎
醫學博士
小兒科　部長　佐藤尚輔
岩手醫學士
産婦人科　部長　黑澤廣
醫學士
耳鼻咽喉科　部長　大町久藏
醫學士
皮膚泌尿器病科　部長　前澤正
花柳病科　醫學士
X科　醫學博士　石山謙郎
内科　技手　石山彪
藥局　藥劑士　吉本孝平
事務長　鈴木寶雄
◎病室完備　入院隨意

福禄ストーブ福引
景品付大賣出し
◈景品總額五萬圓◈
期間昭和十年九月廿五日ヨリ十二月十二日マデ
賣出規定
福引券　ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ進呈致シマス。
フクロクストーブ　一號　大衆（中型）寶（大小）各一本ニ付一枚
フクロクストーブ　二號　大衆（大型）　各一本ニ付二枚
フクロクストーブ　三號　各一本ニ付三枚
フクロクストーブ　四號　各一本ニ付四枚
抽籤發表　昭和十一年二月十一日東京朝日新聞發表致シマス。
景品引換　昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄
福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス
景品甲　福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ハ左ノ景品ヲ差上グ
一等　百圓　一本
二等　參拾圓　二本
三等　拾圓　三本
四等　五圓　四本
等外特製福禄便箋　空籤ナシ
福禄ストーブ販賣代理店
平町五丁目　㊄　釜屋商店
平驛前　㊅　阿部石炭商店

かまぼこ　製造
お惣菜用　さつま揚　吉原揚
平町一丁目
福禄園
電話一四一番